

ドキュメント作成日	1/5/2022 11:29 AM
Version	1.00
ドキュメントタイトル	1Min Chart for MT5 Install Manual
サマリー	MT5 で 1 分足チャートを表示するソフトウェアのインストール方法、及び使い方
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>● MT5 が受信した1分足からチャートを生成します。</li> <li>● MT5 と共有メモリで同期をとり、リアルタイムで価格表示できます。</li> <li>● MT5 でチャート表示できる全銘柄の表示ができます。</li> <li>● きめ細かなスクロール量調整が可能なため、過去のチャートの検証作業がしやすいと思います。</li> <li>● 「時系列新値足」と「ロウソク足」を切り替えて表示できます。</li> </ul>
既知の Bug	O. MT4 版 70Ticks Chart で問題となったチラつきは、別アプリケーションとして切り離したため、Windows の構造上発生しないはずです。

本マニュアルはインストール方法、Bug などについて書いています。

## ■動作環境

Windows 用の MT5 専用のアプリケーションです。

Windows 以外では動きません。

動作確認は Windows 11 Pro で行っています。

開発環境は Windows 10 Pro 64Bit で行っており、動作確認できていますが、マニュアルの記述は Windows11 です。

MT5 は数社の環境で試しています。

## ■Bug Fix

2021/11/15 : Ver1.00 : 初リリース

2021/12/01: Ver1.01 : 機能の整合性確保

- メニューの精査。

- コンパイル時の UCNTD、UCNTD\_INNER オプションの追加

2021/12/10: Ver1.02 : バージョン入力

2021/12/12: Ver1.03 : 自動起動しないバグ修正

2022/01/05: Ver1.04 : 十字線の追加

#### ■著作権・注意事項・免責事項

本ソフトウェア・文書の利用にあたり、著作権・注意事項・免責事項を承諾いただいたものとします。

本ソフトウェア・文書の著作権は作者である Retar.jp が保有しています。

投資は自己判断・自己責任でお願いいたします。本ソフトウェア・文書を使用し、取引をされ何らかの損失を被られても、Retar.jp では責任を一切負いません(間接的・付随的な障害・損失も含め一切の責任を負いません)。自己責任でご利用ください。

Retar.jp の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアは本人利用に限り完全無料でご利用いただけます。ソフトウェア・文書の全てまたは一部の複製・コピー・リバースエンジニアリング・改変・2 次配布・商用利用・転売・販売等は一切禁止いたします。違反行為を発見した場合は法的処置を行います。

Retar.jp の Web サイト上で配布するソフトウェア・文書は無料提供ですのでサポートなどは行っておりません。万が一、ソフトウェア・文書に不具合や問題があっても当サイトでは修正・対応などができない場合があります。ご利用の環境でトラブルが発生しても助言することはできませんので自己責任でご利用ください。

## ■ サポート

ご質問、ご要望、Bug 情報等ありましたら、下記 URL までお寄せください。

Retar.jp Twitter

[https://twitter.com/retar\\_jp](https://twitter.com/retar_jp)

Retar.jp Web

<https://www.retar.jp/>

個別の問い合わせについて可能な限りお返事させていただきます。

個別にお返事が出来ない場合もありますので、何卒ご容赦ください。

Bug に対しては積極的に修正していくつもりですが、機能拡張への要望は答えできないと思ってください。

## ■ 開発環境

Microsoft Windows 10 Professional

Visual Studio 2019

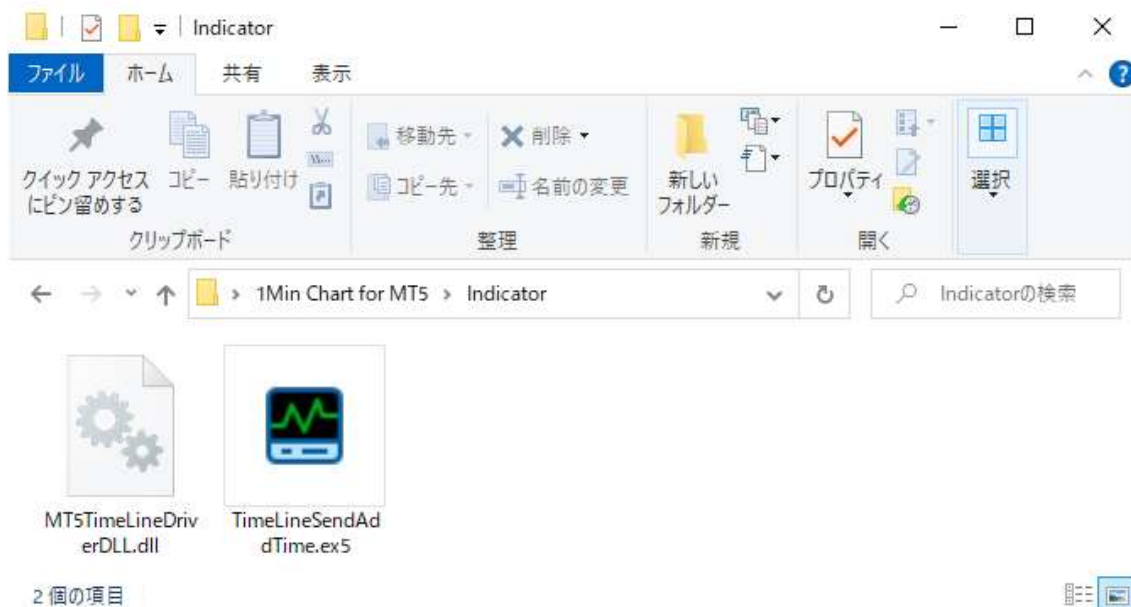
## ■ 検証環境

Microsoft Windows 11 Professional

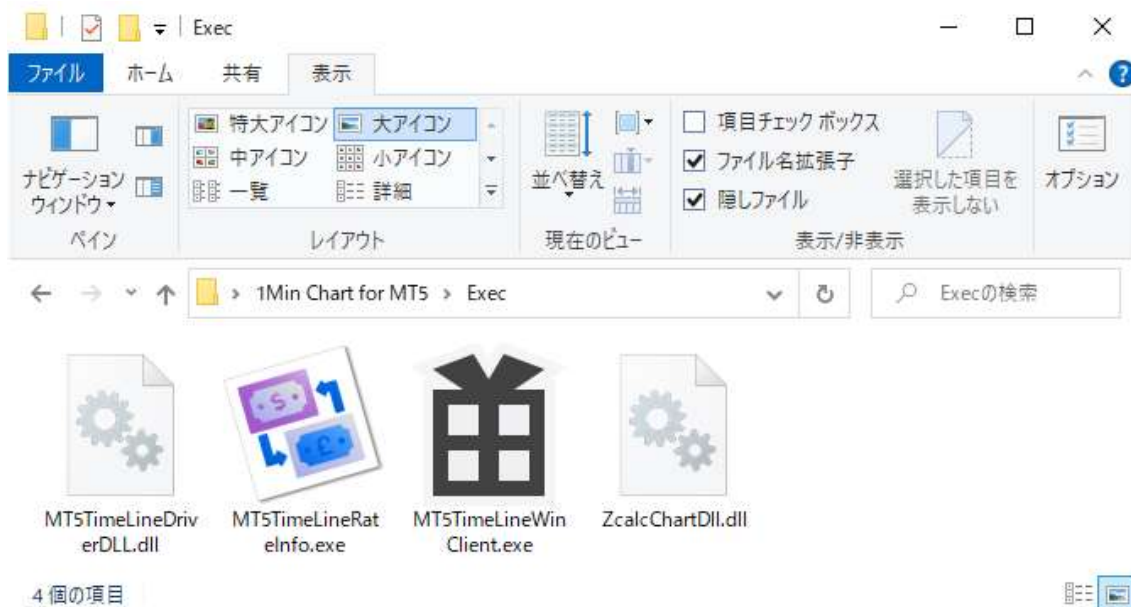
## ■インストール

圧縮ファイルには Indicator フォルダに2つ、Exec フォルダに4つ、合計6つのファイルが含まれています。

### Indicator フォルダの中の2つ



### Exec フォルダの中の4つ

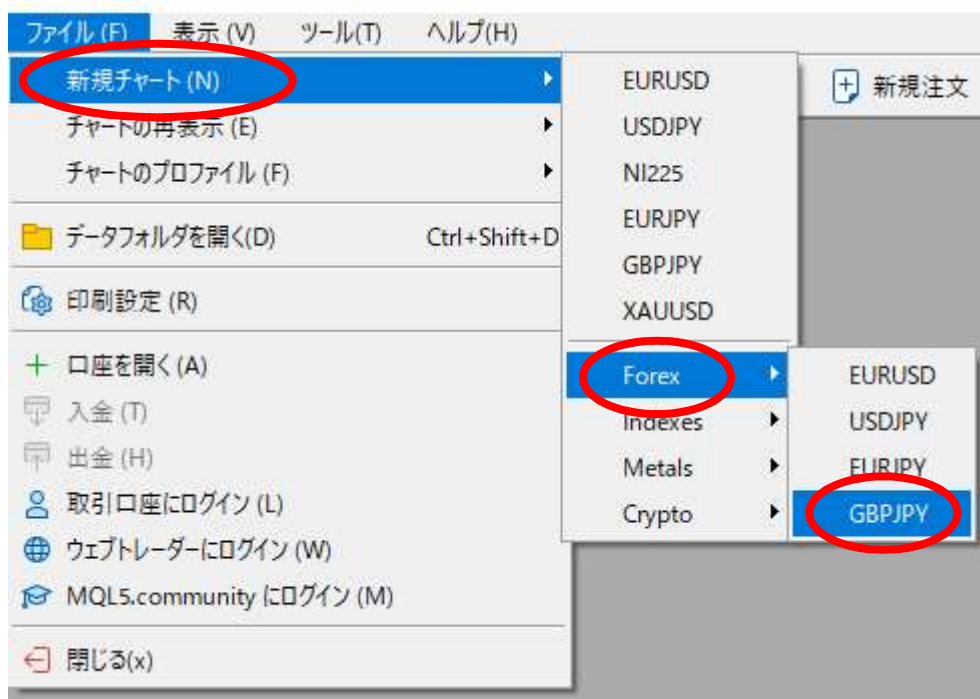


## ■旧バージョンのアンインストール

- ① レジストリへの書き込みがないため、ファイルを消せば、アプリケーションはクリーンに消えます。
- ② インストーラを作っていないため、インストールした6つのファイルを消すだけです。

## ■インストール

1. インストール可能な Windows 版 MT5 を用意します。  
本番のアカウントでも使用可能ですが、チャートを見るだけならデモアカウントで十分です。
2. 「ファイル」メニューから Indicator を動作させる銘柄を選択します。はじめは USDJPY (ドル円)、GBPJPY (ポンド円) などがおすすめです。GBPJPY で説明していきます。



3. はじめは1時間足が表示されます。



4. 表示を1分足に変更し、好みのロウソク足の表示にします。

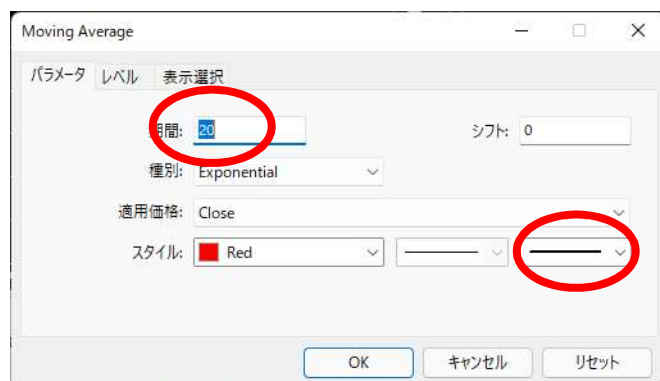
このソフトウェアは1分足のみで起動できます。



5. 20EMA を赤線で表示します。

デフォルトは「10」ですが、「20」にして表示します。

線の太さは好みで。

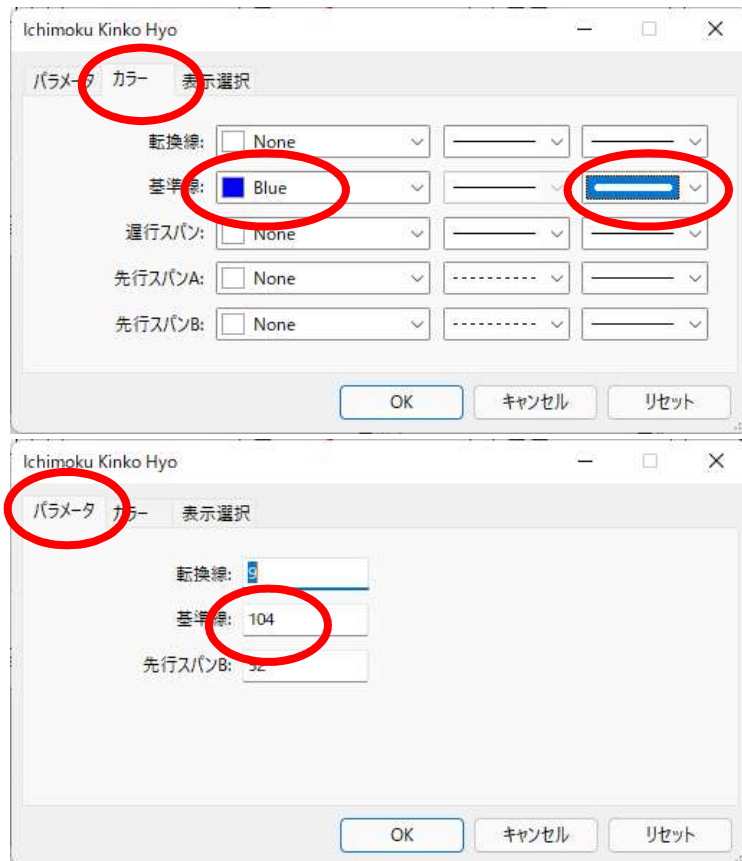




6. カラーと基準線を指定します。

カラーは「Blue」で太線。

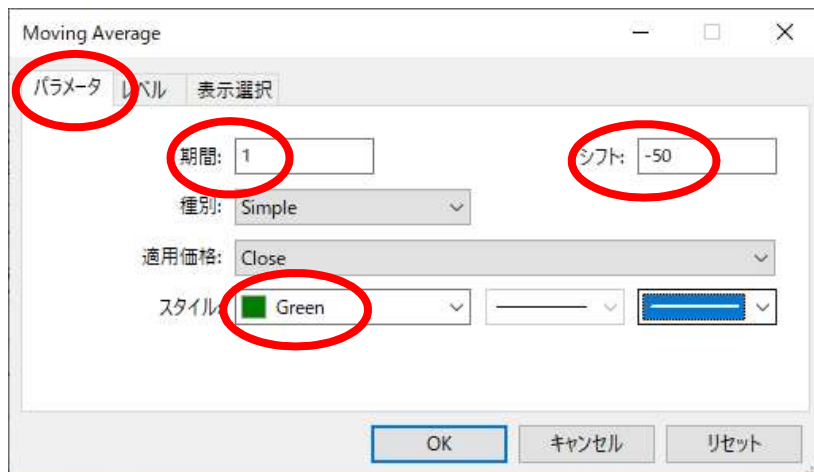
パラメータの基準線の値を「104」にします。



7. 遅行スパンを入れます。

移動平均線を追加します。

パラメータの期間を「1」に、シフトを「-50」に、スタイルは「Green」にします。



8. MT5 でも同じ表現ができます。

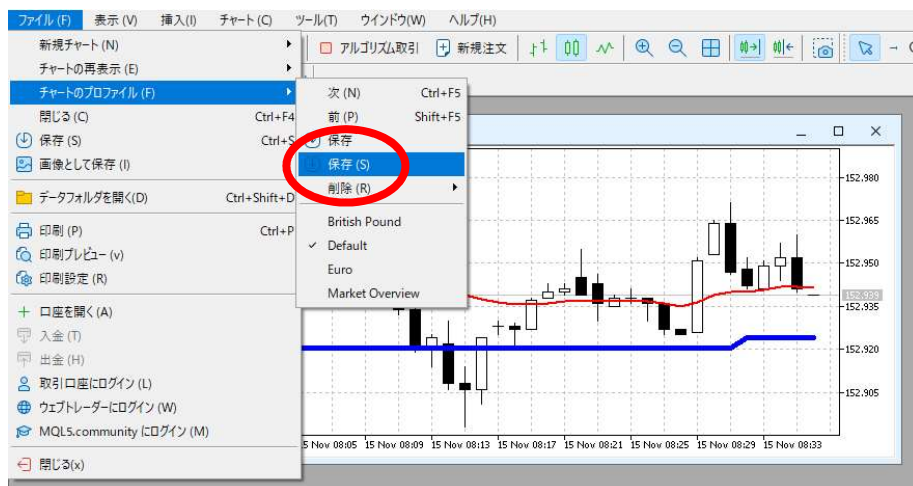
MT5 は、Indicator を導入しない限り、時間の表現が苦手であるため、「1時間」の認識がしづらいと思います。

Windows 版の MT5 は Indicator を、開発して表示できます。

なお、iPad 版や証券会社が提供するテクニカル指標では、不可能なことが多いです。



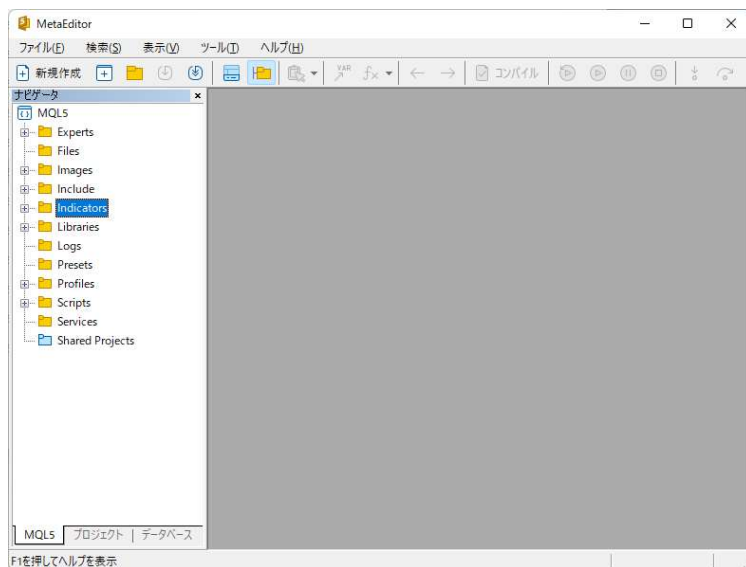
9. この時点で1分足を好みのスタイルに変更しておきます。  
スタイルが決まったら、一旦、チャートを定型保存しておきます。  
チャートウィンドウを選択しておき、「チャートのプロファイル → 保存」を選択します。後から呼び出す時に楽になります。



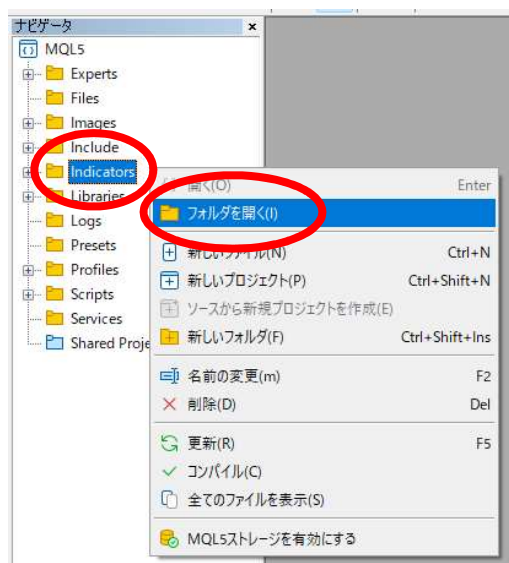
10. ここからはチャートを表示するための Indicator を設置します。「F4 キー」または「IDE」のボタンをクリックします。



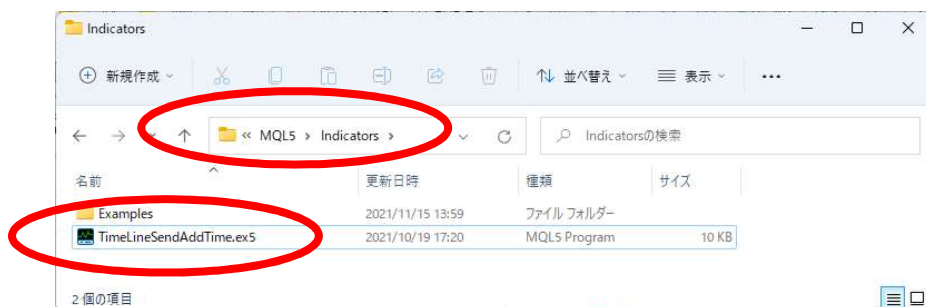
11. MetaEditor が表示されます。



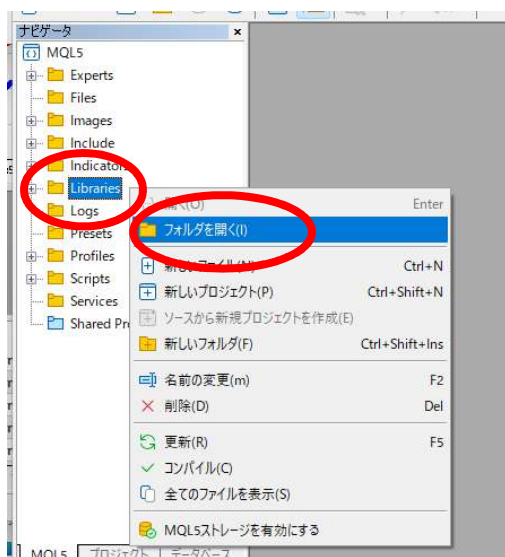
11. 「Indicator」のフォルダの上でマウスの右ボタンをクリックし、「フォルダを開く」を選択します。



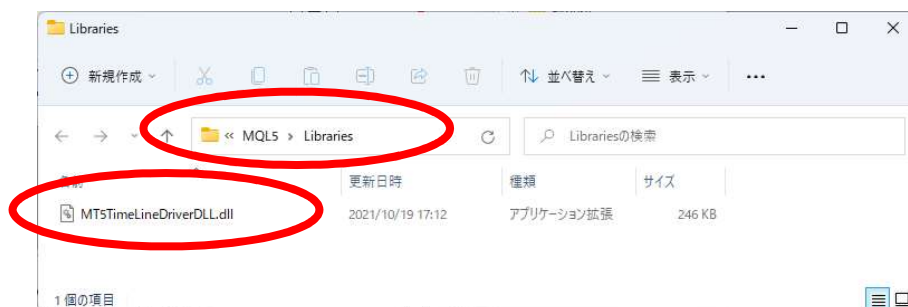
12. エクスプローラーが起動してくるので、フォルダの中に「TimeLineSendAddTime.ex5」をコピーします。



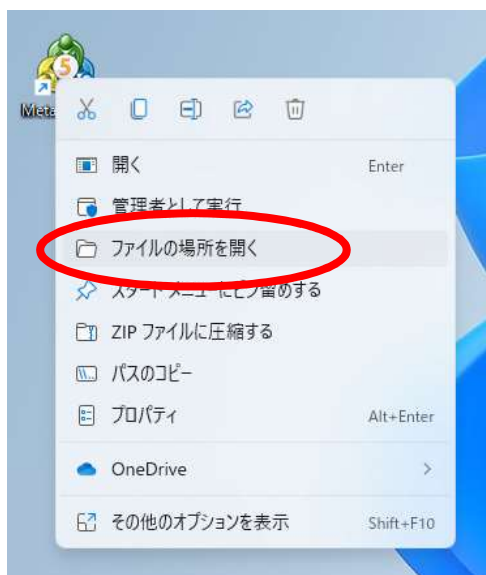
13. 「Libraries」のフォルダの上でマウスの右ボタンをクリックし、「フォルダを開く」を選択します。



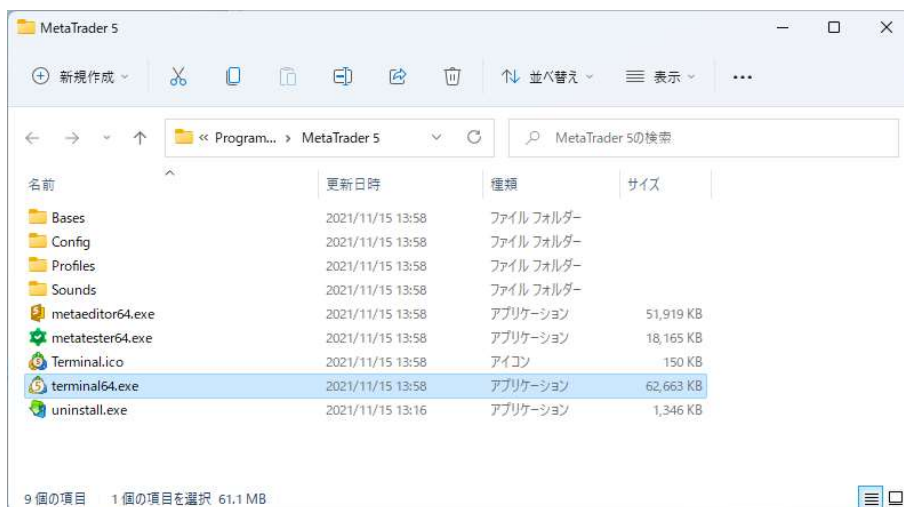
14. エクスプローラーが起動してくるので、フォルダの中に「MT5TimeLineDriverDLL.dll」をコピーします。



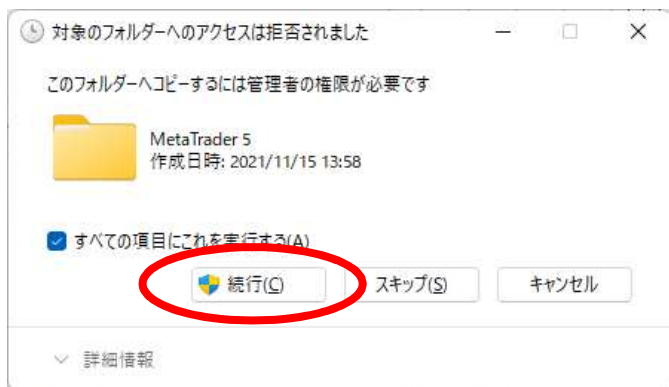
15. デスクトップの「MetaTrader5」のアイコンの上で、マウスの右ボタンを押して「ファイルの場所を開く」を選びます。



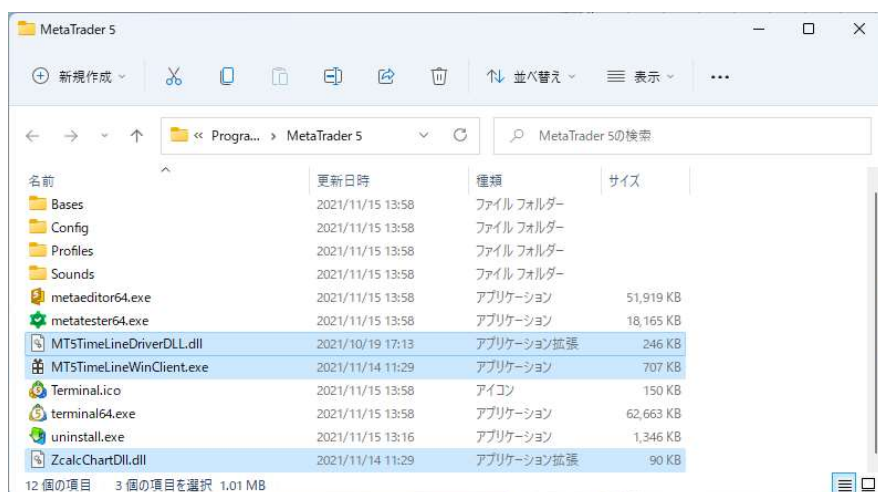
16. MT5 がインストールされているフォルダが表示されます。



17. 「MT5TimeLineDriverDLL.dll」、「ZcalcChartDll.dll」、  
「MT5TimeLineWinClient.exe」「MT5TimeLineRateInfo.exe」の 4 つのファイルを  
MT5 がインストールされているディレクトリにコピーします。  
コピーしようとする拒否のダイアログが出てきますが、「続行」を選び強制的にコ  
ピーします。

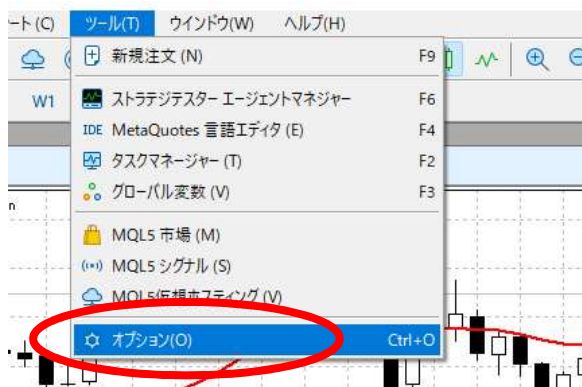


18. 「続行」を押すと4つのファイルが強制コピーされます。



※図には「MT5TimeLineRateInfo.exe」がありませんが、コピーしておきます。

19. MT5 の「ツール → オプション」を開きます。



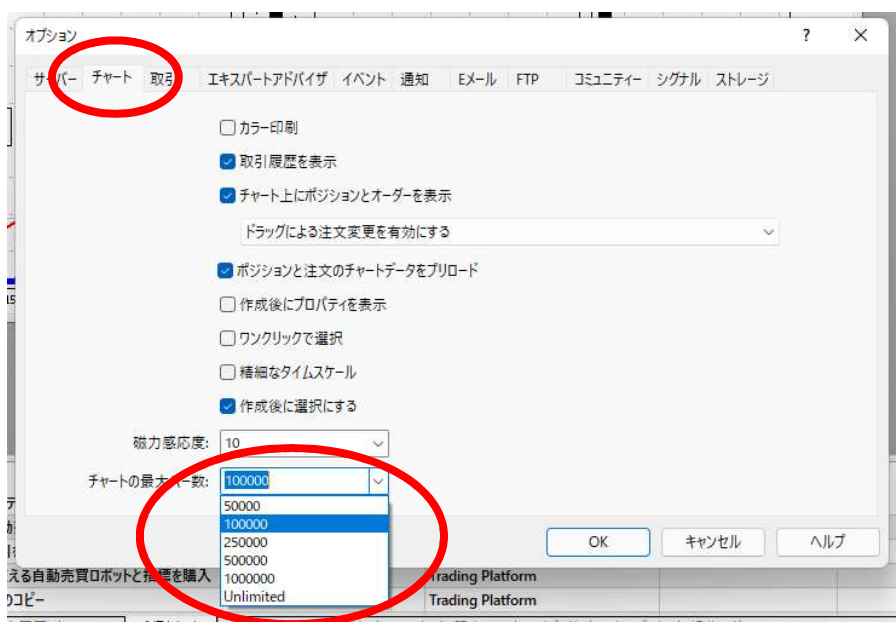
20. オプションダイアログが出て来るので、「チャート → チャートの最大バー数」を変更します。

初期値は「100000」で、約 3 カ月半のデータまで遡ることができます。

より過去のデータが見たい場合は、数字を大きくしてあげます。

PC のスペックが低い場合は、小さい数字にしてあげます。

直近のデータだけで十分の場合は「20000」ぐらいが適切だと思います。

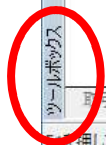


21. オプションの設定と Indicator を反映させるために MT5 を再起動します。

再起動しないと何時までもメニューが出てきません。

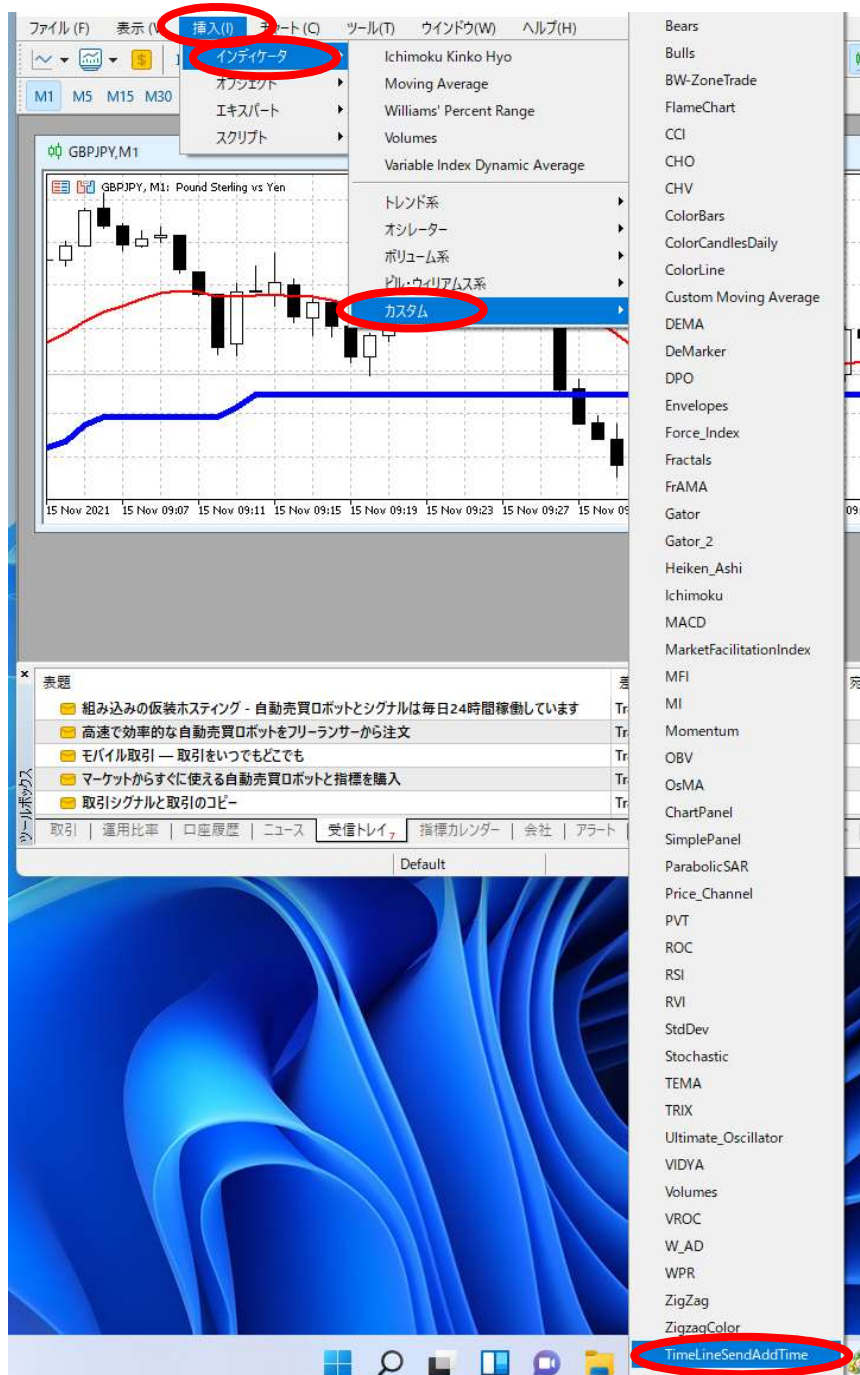


起動時のメッセージが表示されるので、出しておきましょう。

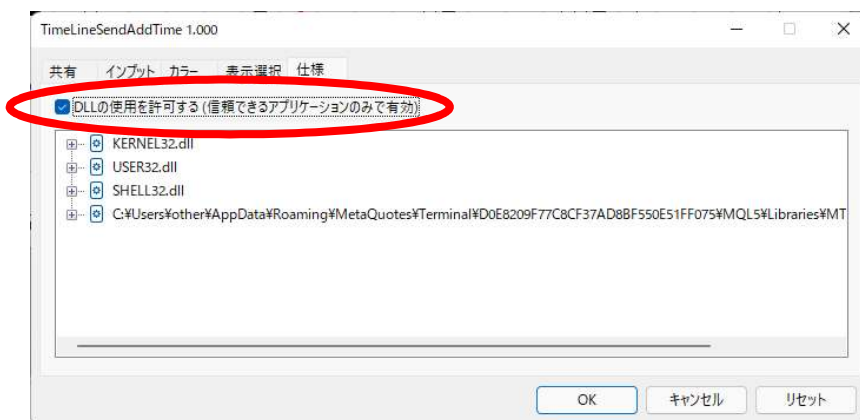


23. 再起動後に1分足に Indicator を追加します。

「挿入 → インディケーター → カスタム → TimeLineSendAddTime」を選択します。



24. 「TimeLineSendAddTime 1.000」ダイアログが出てくるので、「DLLの使用を許可する」のチェックを入れて「OK」をクリックします。



25. 起動直後の起動時間を確認してください。

MT5 側は「エキスパート」に表示されている部分と、ユーザアプリケーション (MT5TimeLineWinClient) の上部分に表示されている時間を比較します。

「分」の部分の同期がとれていれば、OKです。

ずれているとデータの一部が飛んでいます。

図の場合は「19 分」です。

時間	ソース	メッセージ
* 2021.11.15 17:19:15.102	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	-----
* 2021.11.15 17:19:15.103	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	OnInit MTSTimeLineDriver : OnInit Start : 2021.11.15 10:19:07
* 2021.11.15 17:19:15.103	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	SYMBOL : GBPJPY PERIOD : 1
* 2021.11.15 17:19:15.103	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	OnInit MTSTimeLineDriver : OnInit End : 2021.11.15 10:19:07
* 2021.11.15 17:19:15.103	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	-----
* 2021.11.15 17:19:15.980	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	-----
* 2021.11.15 17:19:15.980	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	First Call Function : Save File : START : 2021.11.15 10:19:07
* 2021.11.15 17:19:21.127	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	>>>>>>>>>> 起動時間 MTSTimeLineDriver 2021.11.15 10:19:07 <<<<<<<<<<
* 2021.11.15 17:19:21.127	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	First Call Function : Save File : END : 2021.11.15 10:19:07
* 2021.11.15 17:19:21.127	TimeLineSendAddTime (GBPJR...	-----

17:19:40.832	2021/11/15 10:19:40.000	152.80600	(2021/11/15 10:19:40.000)
--------------	-------------------------	-----------	---------------------------

マーケットが始まる前の週初に起動して、週末までデータ受信を続ける前提の仕様です。

毎朝起動するなど、週の途中で、起動した場合は同期がずれる場合があります。一旦、同期されてしまえば、週末まで MT5 とチャートアプリケーションとの同期が維持されます。

再起動して同期をとる場合、MT5 とチャートアプリケーションを終了し、MT5 を再起動して同期させます。

### ◆同期の確認方法・その1

MT5 は起動直後から、前回の起動時からのデータを差分取得しようとはしますが、ユーザアプリケーション側(以降、MT5TimeLineWinClient)では、同期をとる前のデータしか取得できません。

MT5 のデータ取得状況を取得する API が用意されていないためです。  
このため MT5 が同期をとったあとに、再起動するしか方法がありません。

図は起動直後にデータの同期がずれている例。

MT5 のチャートと、MT5TimeLineWinClient のチャートの形が違います。

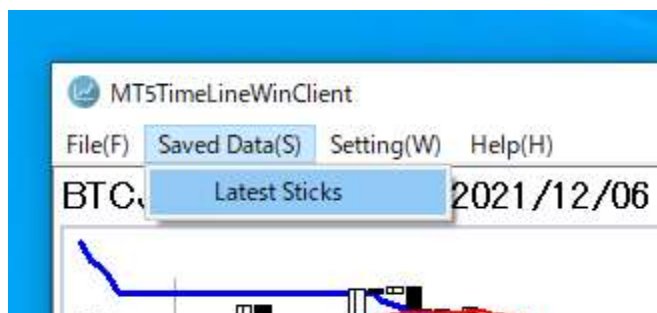


## ◆同期の確認方法・その2

チャートの形よりも、より確実に同期を確認する方法があります。

V1.01 から追加しました。

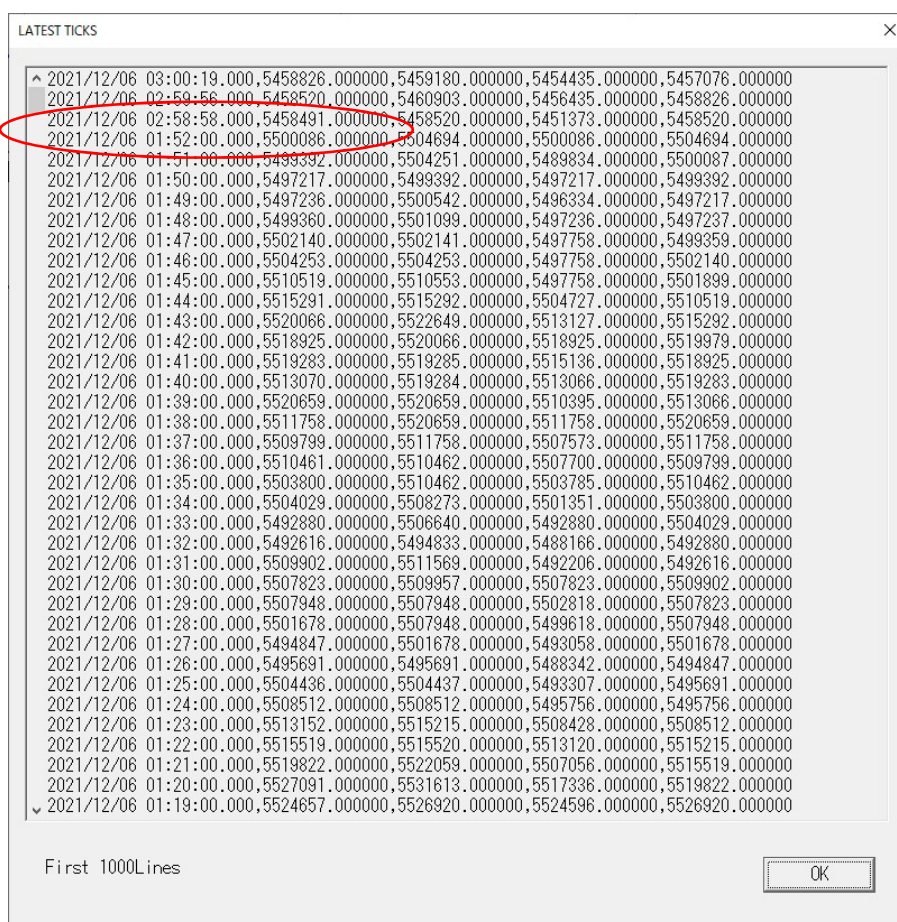
アプリケーション起動後に「Saved Data → Latest Sticks」起動します。



受信データダイアログが表示されます。

1:52 から 2:58 の間の 1 分足が受信できていません。

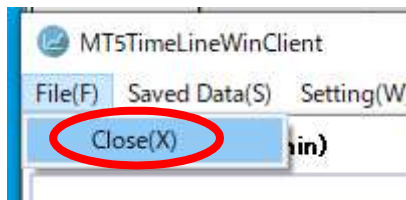
同期させてから使いましょう。



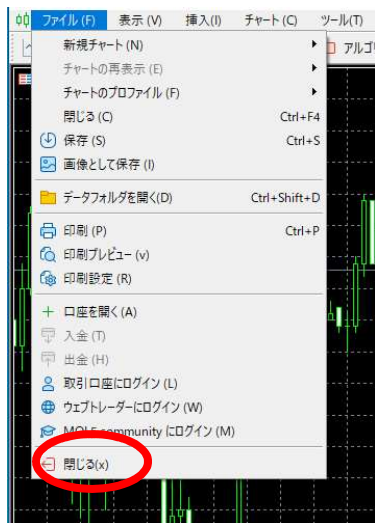


#### ◆同期をとる手順

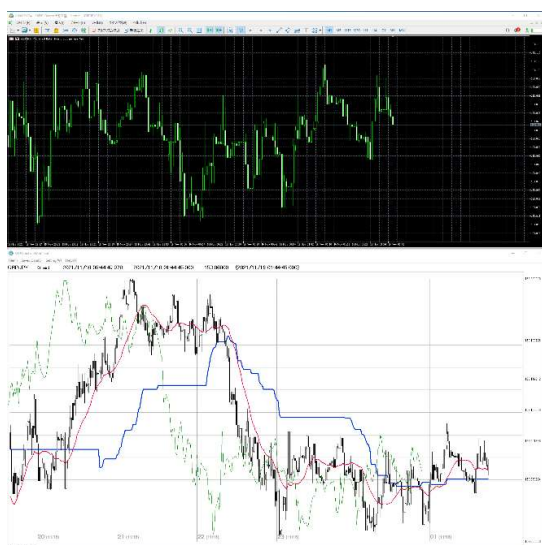
①MT5TimeLineWinClient を「Close」します。



③ MT5 側の同期をとるために1ー2分ほど起動したのち、MT5 を終了します。



④ アプリケーションを終了したのち、MT5 を起動します。  
自動的にチャートアプリケーションが起動します。



# ■MT5TimeLineRateInfo.exe

必ずしも必要ではないソフトウェアです。

必要だと思う方は使ってください。

チャートアプリケーションが起動の後にダブルクリックで起動してください。

終了時にも、最初に終了させてください。

再起動、シャットダウンすれば、自動終了します。

直近 80 行までの歩値を表示するアプリケーションです。

80 行表示させるには 4K モニタが必要です。

15 秒ごとに時間が色分けされているため、Ticks がノロいのか、速いのか、カラーリングで理解できるようになっています。

為替などの流動性の高い銘柄では、不要だと思いますが、日経 CFD など時間帯により、流動性が異なります。

毎日眺めていると、流動性を意識できるようになると思います。



BTCJPY 2021/12/06 10:38:41.824	
2021/12/06 03:38:40.000	5413669
2021/12/06 03:38:40.000	5411518
2021/12/06 03:38:39.000	5413669
2021/12/06 03:38:39.000	5411518
2021/12/06 03:38:39.000	5413669
2021/12/06 03:38:38.000	5411518
2021/12/06 03:38:38.000	5413669
2021/12/06 03:38:29.000	5411518
2021/12/06 03:38:28.000	5412519
2021/12/06 03:38:28.000	5411518
2021/12/06 03:38:27.000	5412519
2021/12/06 03:38:26.000	5411518
2021/12/06 03:38:26.000	5412519
2021/12/06 03:38:25.000	5411518
2021/12/06 03:38:25.000	5412519
2021/12/06 03:38:24.000	5411518

◆注意事項

① 2つ以上の Indicator は設置できません

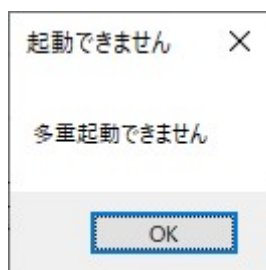
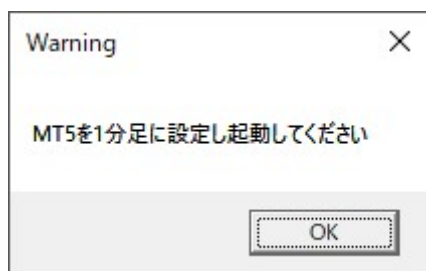
共有メモリの領域が固定であるため、1つしか Indicator を設置できません。

例えば「ポンド円と日経 CFD を同時に見たい」はできません。

② 起動できない場合はダイアログがでます

起動できない場合はダイアログがでるはずですが。

しかし、条件が多く、完全な対応ができません。



③ 同期ずれの発生は MT5 の構造上直せません

MT5 は起動時に MT5 のサーバーと同期あわせをおこないますが、MT5 が最新データであることを、ユーザアプリケーションに知らせる API がありません。

MT5 は、起動時の同期を無視して、起動した時点の最新だと思われるデータを、ユーザアプリケーションに渡してきます。

起動時に同期がとれれば、以降は同期が継続します。



## ■機能説明

起動時のウィンドウサイズは1K モニタ(1920x1080)サイズになっています。

ノート PC などでは、画面サイズを調整する必要があると思います。

右上端の最大化、最小化ボタンは有効にしております。

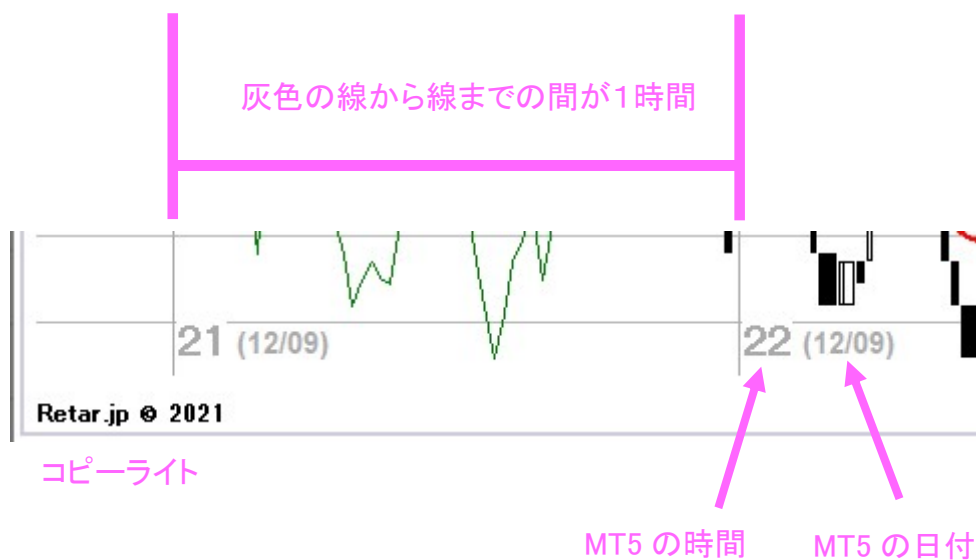
終了ボタンは無効化しております。

いきなり止めると、再同期が必要になるため、メニューからの終了しかできません。



## ■機能説明・表示下部

左下の拡大図を表示しています。



※「00」時の表示がありませんが、MT5 のサーバー側が日替わり処理をしているため、データが送られてきていません。そのため、表示できません。

## ■機能説明・表示右端

右端の拡大図を表示しています。



値幅のメモリは  
調整可能です。  
デフォルトは  
「0.02」です



表示されているロウソク足の最大値

表示されているロウソク足の 76.4%

表示されているロウソク足の 61.8%

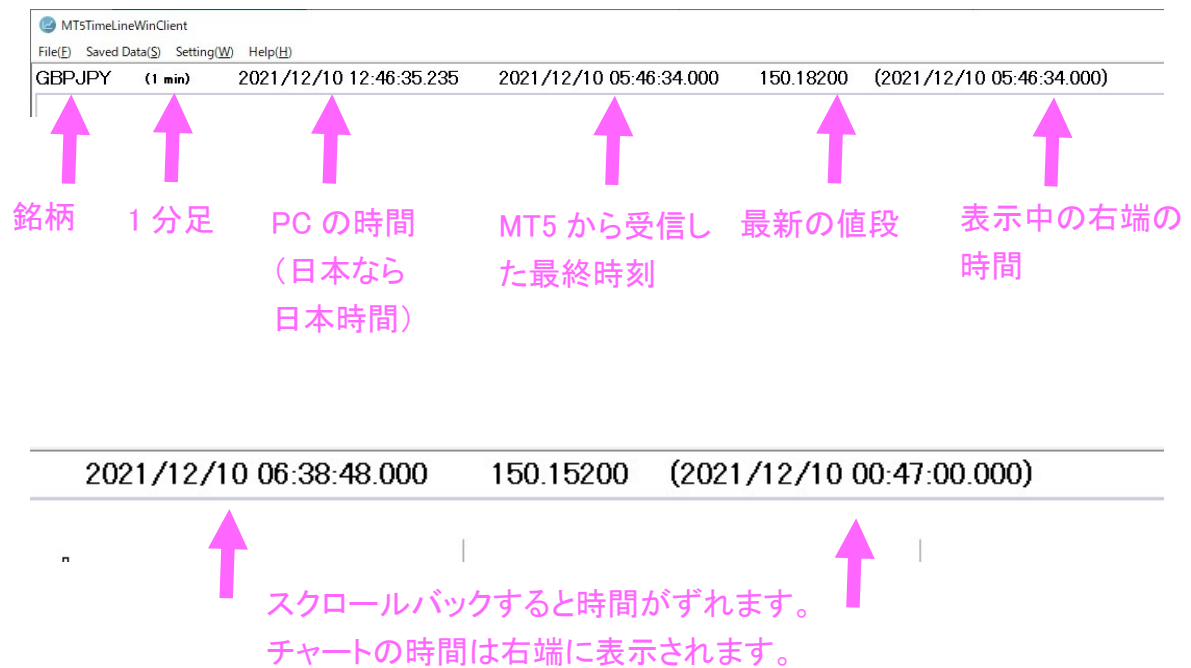
表示されているロウソク足の半値

表示されているロウソク足の 38.2%

表示されているロウソク足の 23.6%

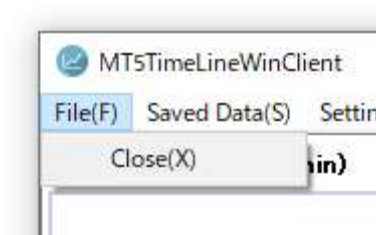
表示されているロウソク足の最小値

## ■機能説明・表示右上



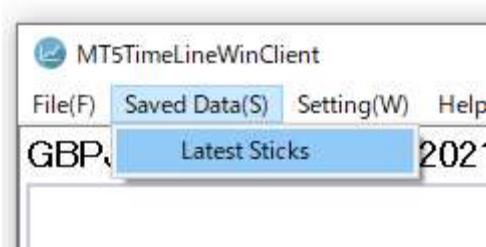
## ■機能説明・メニュー・「File」・「Close」

アプリケーションの終了



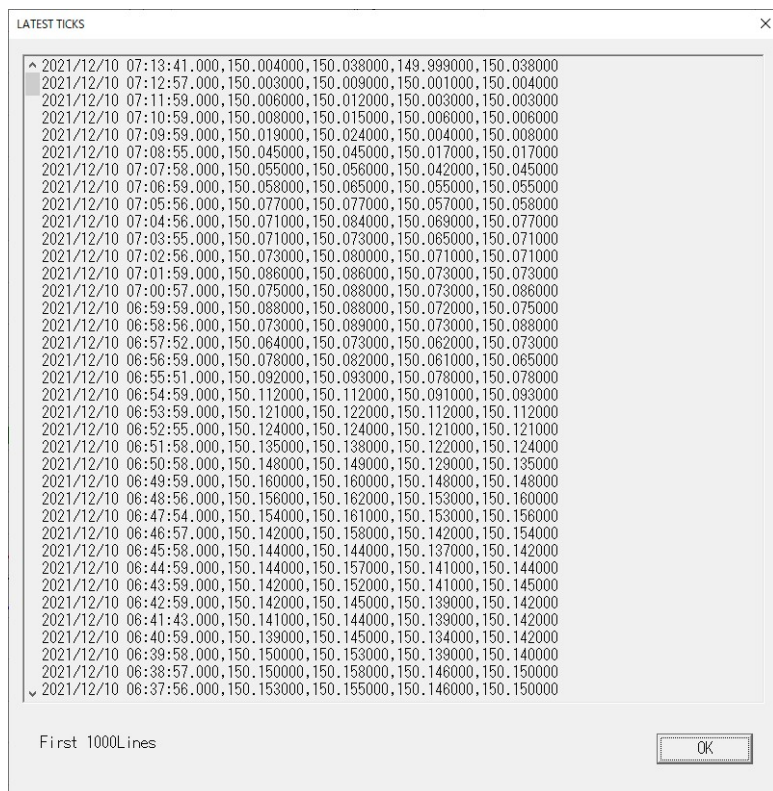
## ■機能説明・メニュー・「Saved Data」・「Latest Sticks」

受信した最新の Ticks を表示します。



直近の 1000 分のデータが表示されます。

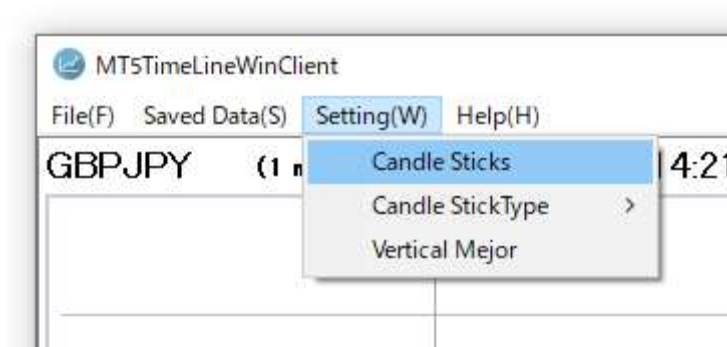
MT5 との同期確認に使用します。



■機能説明・メニュー・「Setting」・「Candle Sticks」

表示するロウソク足の本数を指定します。

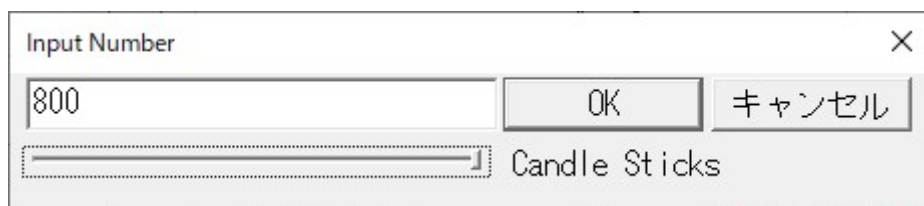
デフォルトは「360」(直近の 6 時間)です。



15 から 800 の間で設定できます。

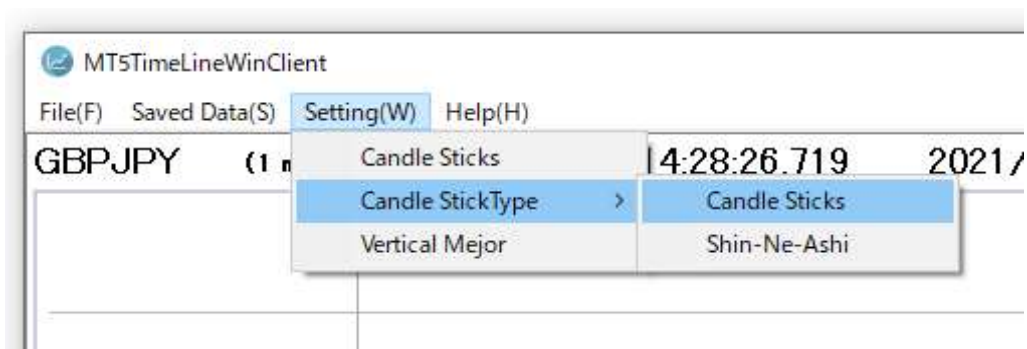
おススメは 6 時間ですが、7 時間(420)、8 時間(480)など、好みの値で。

値の入力は、スライダーで調整するか、直接キー入力して、「OK」をクリックします。



■機能説明・メニュー・「Setting」・「Candle Stick Type」

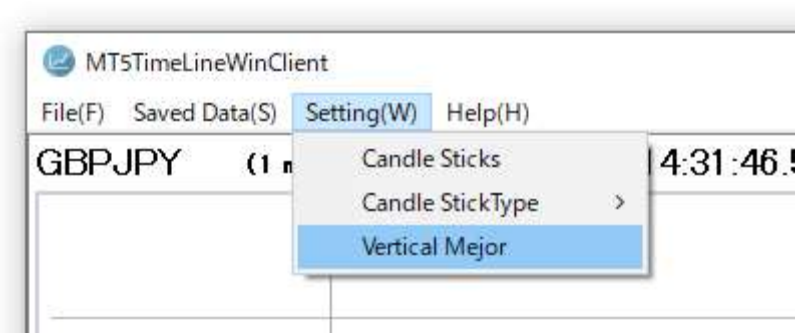
「Candle Sticks」は通常のロウソク足、「Shin-Ne-Ashi」は時系列新値足です。



■機能説明・メニュー・「Setting」・「Vertical Major」

垂直のメモリの設定です。

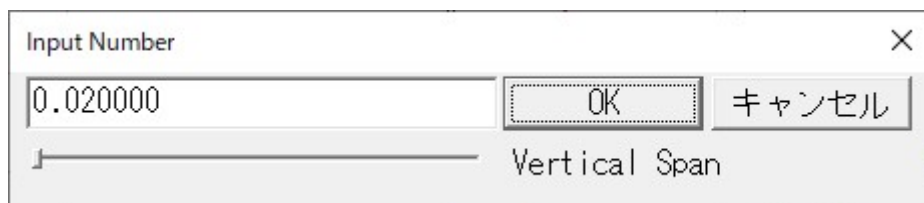
デフォルトは「0,02」です。



スライダーは使用不可になっています。

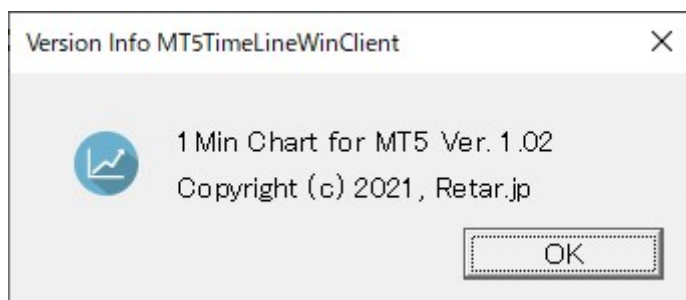
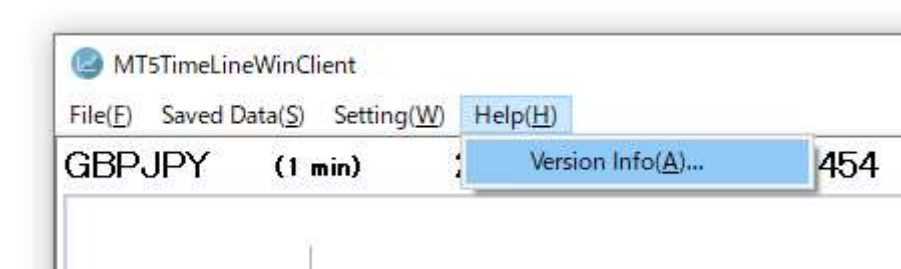
適切な値を入力してください。

スキャルピングの場合は、スプレッドの倍ぐらいが適切だと思います。



■機能説明・メニュー・「Help」・「Version Info」

バージョン情報



### ■スクロール量調整

F1 キー、F2 キー、F3 キーでスクロール量を調整できます。

Home キーで最新のデータ表示になります。

スクロールするのは、右矢印キー、左矢印キー、PageUp キー、PageDown キーで可能です。

バックスクロールしている間は、新規の描画が停止します。

その間も、MT5 からのデータ受信が続いています。

Home キーを押せば、最新データに戻すことができます。



## ■ 日経 225CFD に導入してみました

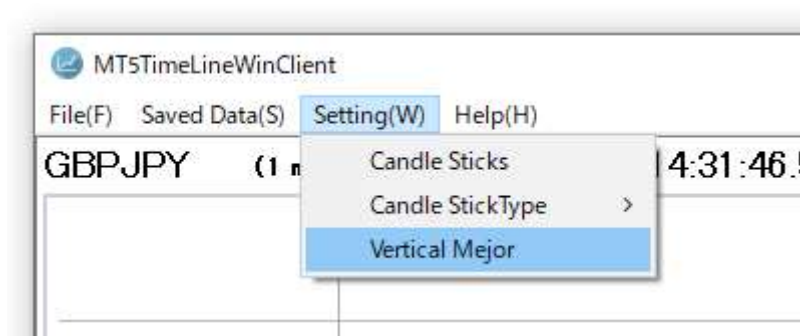
日経 225CFD に同期が整った状態でチャートを導入すると、下半分ぐらいが灰色の塗りつぶし描画になります。

原因は、垂直方向の目盛が適切に設定されていないためです。

日経のスクアルピングでは、20 円～30 円値幅が適切だと思います。

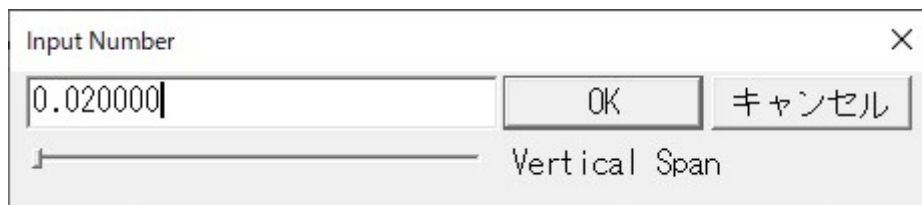


Vertical Major を変更しましょう。



起動したばかりの時の設定値は「0.02」になっています。

「一回、設定した後に保存したい」と思いますが、レジストリを汚さない設計のため、毎回起動時に設定する方式を採用しています。



設定値を「20」にして、「OK」を押します。



20 円値幅に設定されました。

メンドクサイかもしれませんが、人それぞれ狙う値幅は違うモノです。



### ■ 十字線の表示(1.04 から)

マウスオーバーで十字線が表示されます。

On、Off は「Setting -> Cursor」から行えます。

